

## Meeting Report

### 第56回米国血液学会議(ASH 2014)

#### 56th American Society of Hematology(ASH) Annual Meeting

会期：2014年12月6～9日

会場：Moscone Center(サンフランシスコ)

豊嶋 崇徳

北海道大学大学院医学研究科内科学講座血液内科学分野教授

### はじめに

第56回米国血液学会議(ASH 2014)は、2014年12月6～9日にサンフランシスコで開催された(図1)。世界各地より18,000名が集う血液学の最高峰の学会であり、大変充実した学会であった。

本稿では、本学会のトピックスをкаいつまんで紹介する。

### 造血

血小板数の恒常性維持メカニズムに関する新たな知見がプレナリー演題として発表された(#2)。巨核球から産生された血小板が老化すると脱シアル化が起こり、これにより肝細胞上の Ashwell-Morell 受容体に結合し、JAK-STAT 経路を介してトロンボポエチンを産生し、巨核球からの血小板産生を刺激することで血小板数が一定に保たれるという発見である(図2)。Ashwell-Morell 受容体は1974年に Ashwell と Morell によって発見された歴史的に有名な肝細胞上の受容体であり、2002年に脱シアル化された、つまり老化した血小板がリガンドであることが発見されていた。2008年には敗血症において血小板の脱シアル化が促進され、肝臓で血小板が除去されることで血小板減少が起こり、播種性血管内凝固症候群の発症が抑制されると

いう、宿主にとって有利な役割を担っていることが報告された<sup>1)</sup>。今回は恒常状態での血小板維持の分子メカニズムが解明されたわけで、この成果はこの発表翌日に『Nature Medicine』誌に報告されるというタイムリーさが見事であった。

### 白血病

急性骨髄性白血病(acute myeloid leukemia; AML)に対するソラフェニブのランダム化比較試験(SORAML 試験)の報告が印象に残った(#6)。ソラフェニブはマルチキナーゼ阻害薬で、この試験では267例の18～60歳の初発AMLにおいて、化学療法にソラフェニブあるいはプラセボが追加された。寛解導入率には有意差がなかったが、3年無イベント生存率では40% vs. 22%とソラフェニブ群で有意に良好であった。気になるFMS様チロシンキナーゼ3の遺伝子内縦列重複変異(FMS-like tyrosine kinase 3 internal tandem duplications; FLT3-ITD)陽性患者では、症例数が少ないためか明らかな有効性は示されておらず、今後の課題であろう。過去の高齢者を対象とした同様の試験では毒性のため有効性は示されなかったが、今回、若年者では耐用性が高く有効である可能性が示された。

オランダ、ベルギー、スイスの共同研究グループ(HOVON/

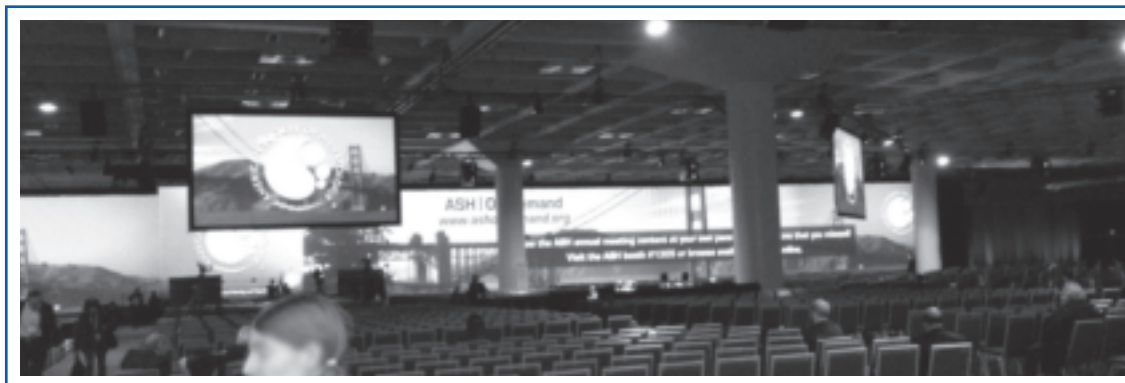


図1 ASH プレナリーセッション開始前の風景